

若者UP

検索

www.wakamono-up.jp

**家族を助けるといふ名目で
自宅にひきこもる
生活を続けた**

高校卒業と同時に父のドイツ赴任が決まり、僕は一緒に行くことを決めました。ドイツで大学に行くための勉強をしようと思っただけです。ドイツ語の語学学校に通い始めて、2年経つてから、教育システムの違いから僕はドイツの大学を受験できないことがわかりました。ちょうどそのころ、父の赴任が終わり、家族は日本への帰国を決めていました。僕は迷いましたが、家族と一緒に帰国することにしました。

帰国したのち、母が難病で倒れ、亡くなりました。だから、僕は、母が担っていた家事を引き受けることにしたんです。「ごはんを作ったり、掃除したりする以外は、ゲームをしたり、テレビを見たりする生活でした。家族以外の人に「今、何やってるの?」と聞かれるのが恐怖でしたから、だんだんと家からは出なくなりまして。

**一歩を踏み出してから
7カ月で入社。
あつという間だった**

こうした生活をしてきた僕も、30歳になる直前に焦りを覚え、自宅付近で募集していたアルバイトに端から応募してみました。でも、全滅です。アルバイトくらいでできると思っていましたから、すごく落ち込み、ひどいうつ状態になり、寝たきりになってしまいました。

何カ月もそんな状態が続く僕のことを、兄が心配して「コネクションズかわさきに一緒に行ってみよう」と誘ってくれました。そこから急展開です。7カ月後には就職することになったんです。

**「あきらめること」をやめよう
きつといるいろいろな人が
助けてくれるはず**

「コネクションズかわさきに通った後、そこを運営するNPO法人育て上げネットのプログラムを受けることになり、その流れで若者UPプロジェクトに参加したんです。マイクロソフト社のテレワーク週間と連動した別海町留学に参加してもらったり、MOS (Microsoft Office Specialist) 講座を受け、模試でも高得点を取ることができました。「みなさんは就職活動とプログラムを行いながら、MOSで高得点を得た。そのことを見る人は必ず見てくれる」と言ってくれた講師の方の言葉に、僕は心を動かされました。人生で無駄なことはないし、真剣にやればきちんと評価が得られるんだと、はじめてわかったんです。

僕は、かつての僕のように一歩を踏み出せなくなってしまう人たちに「人生をあきらめることをもうあきらめてしまおう」と言いたいんです。働くということは、思い描いていたほどつらくもないし、想像していたほど大変でもない。楽しいと思えることだってたくさんあります。助けを求めれば、きつと多くの人が支援してくれるはずですから、「やってみようかな」という気持ちを、形にしてあげて欲しいなと思います。

**5年間のひきこもりを含む8年間の
無業生活から、夢が持てる会社へ入社。
ディースタンダード株式会社◎海崎 拓也さん (31歳)**



高校卒業後、父の転勤に伴ってドイツへ。ドイツの大学受験を目指していましたが、システムの違いから受験できず、失意のまま帰国。帰国後、母の闘病生活を支え、母の死を看取った海崎さんは、自宅にひきこもりながらも家族を支えるために家事を行いました。30歳を前にうつ状態になったしまった海崎さんを心配した兄からのすすめでコネクションズかわさき（旧かわさきサポステ）へ。その後、海崎さんはディースタンダード株式会社でインターンを行い、2015年10月、同社へ入社しました。



▲現在は、車で移動しながら、携帯電話などの電波障害を起こしているエンドユーザー宅を訪問。原因を探って修復する仕事を行っている。